

形容詞の活用を記せ。また右側の活用と左側の活用の違いは何か記せ。

A(を) Bみの形容詞の語幹用法の訳を答えよ。

ア行の動詞を3つ記せ

「き」「けり」の意味とその見分け方を記せ。けりの過去以外の用法ではどういうときに過去以外の用法になるかも示せ。

「たり」「り」の意味と意味の見分け方を記せ

「ず」の活用表を作れ

「つ・ぬ」の意味と意味の見分け方を記せ

から	く
かり	く
○	し
かる	き
○	けれ
かれ	○

↓助動詞以外につく

↓下に助動詞が付く

AがBなので

得・心得・所得

き ↓直接過去

けり↓関節過去／和歌中・会話の文末・「なりけり」では詠嘆が多い。

ます存続(〜ている)、違和感があれば完了(〜した)

ざら	ず
ざり	ず
○	ず
ざる	ぬ
ざれ	ね
ざれ	○

通常↓完了(〜した)

つ・ぬ+推量の助動詞↓強意(きつと)

「る・らる」の意味と意味の見分け方を記せ

助動詞「る」「り」の意味の見分け方を記せ

助動詞「ぬ」「ず」の意味の見分け方を記せ

「す」「さす」「しむ」の意味と意味の見分け方を記せ

推量の助動詞の全体像を書け。

受・可・自尊見分け方↓「に」がつく。「ず」や「反語」がつく

「思わず〜してしまう」補足的に心情動詞・知覚動詞 それ以外

a段↓る

e段↓り

ぬ+連体形接続の語↓打消 ぬ+体言、ぬ+断定の助動詞なりなど
ぬ。ぬ↓完了(係助詞や疑問詞が来るとき以外)

「ねば、ねど、こそね」などの已然形接続の語↓打消

ね。ね↓完了

尊敬語がない↓使役

尊敬語がある↓q割尊敬、r割使役

べし まじ

<

む じ

らむ

けむ

まし

「む」の意味と意味の見分け方を記せ

「じ」の意味と意味の見分け方を記せ

「らむけむ」の意味と意味の見分け方を記せ

「らむ」の識別を記せ

「べし」「まじ」の意味と意味の見分け方を簡潔に記せ

「まし」の意味と意味の見分け方を記せ

文中

・む+体言↓婉曲
・む+助詞↓過程

文末

・一人称↓意志
・二人称↓勧誘・適當

・三人称↓推量

・一人称↓打消意志
・二人称↓打消推量

らむ↓現在
けむ↓過去

・文中↓伝聞・婉曲

・文末∴推量の対象が見えない↓推量

推量の対象が見える↓原因推量

u+らむ↓原則 現在推量の助動詞「らむ」

e+らむ↓原則 完了・存続の助動詞「り」の未然形+推量の助動詞「む」
様々な形 ↓ 「奉らむ」のように、用言の未然形+推量の助動詞「む」

難しい！基本は文脈 左記は一応

・比較選択↓適當
・打消が伴う↓可能
・べき由↓命令が多い

せば

ましか(ませ)ば

↓反実仮想

・ためらいの意志(〜しようかな)

未然形

「まほし・たし」の意味を記せ

推定の助動詞を全て記せ

2つの助動詞「なり」の語源・意味・意味の見分け方を記せ

「めり」の語源とその意味を記せ

「らし」の意味を記せ

「ら」と「し」の訳を記せ

願望

なり・めり・らし

・音十あり↓推定の「なり」 終止形十なり↓推定

・に十あり↓断定・存在の「なり」 連体形〇〇体言十なり↓断定

・あるなり↓あんなり↓あなり など音便すれば推定

・目十あり 推定「〜のようだ」

推定「〜のようだ」

比況「〜のようだ」

係助詞

もぞゝ

もこそゝの訳を答えよ

こそ…ゝゝの訳を答えよ

接続助詞

接続助詞「は」の訳を、接続とともに記せ

「は」は打消しの助動詞「ず」や形容詞に未然形接続する場合どのような形になるか
答えよ。

接続助詞「を」に「の」訳をすべて記せ

て・で・つつの意味を接続と共に示せ

「もの・ものゆゑ・ものから・ものを」の意味を記せ

ながらの意味を4つすべて記せ

「したら困る、大変だ。」

逆説

未然形+ば↓「もし〜ならば」

已然形+ば↓「ので、〜すると、〜すると」も

ずば↓ずは くだ↓くは(同じく)ば↓同じくは() になる

順接、逆説、単純接続 　〜ので、〜のに、〜ところ

【連用形+て】「〜して」「、」【未然形+で】「〜しないで」

【連用形+つつ】「〜しつつ」

「〜のに」

〜しながら、〜だが、〜のまま、全部・すべて〜

終助詞

終助詞の意味をすべて記せ

自己願望の助動詞を書け

他者願望の助動詞を接続と共に書け

状態願望の助動詞を書け

詠嘆の終助詞を書け

念押ししの終助詞を書け

禁止の終助詞を2つ書け

「なむ」の4つの用法とその見分け方を記せ

副助詞

副助詞だに・すら・さえへの用法を記せ

副助詞「し」の見分け方を記せ

願望、詠嘆、念押し、禁止

ばや、てしがなにしがな「〜したい」

未然形+なむ「〜してほしい」

もがな、(もが、がな)「〜であればなあ」

かな「〜なあ」

かし・ぞかし「〜よ、〜ね」

〜な、な(副詞)〜そ(終助詞)「〜するな」

未然形+なむ↓他者願望の終助詞

連用形+なむ↓強意+推量・意志など

ナ変動詞「死ぬ・往ぬ・去ぬ」の未然形+推量の助動詞「む」

強調の係助詞「なむ」

だに・すら↓「さえ」 さへ↓「〜までも」

だに+仮定・命令・意志・願望↓「せめて〜だけでも」

- ①しも・しぞ「無視 or せめて〜だけでも」
- ②AしBは(に)・を
- ③VとしV

格助詞

格助詞の上には原則として何が来るか。品詞で答えよ。

格助詞「の」の用法をすべて記せ

格助詞「より」の意味を3つ記せ

格助詞「して」の用法を3つ記せ

「～ままに」の意味を4つ記せ(「まま」は名詞、「に」は格助詞)

名詞

連体修飾格「の」

連用修飾格「～のように、～を」

準体格「～のもの」

主格「～が」

同格「～で」(下に連体形が伴う)

経由「～を通って」

即時「～するとすぐに」

手段「～で」

手段「～で」

共同「～と一緒に」

使役の対象

「～につれて」

「～にまかせて」

「～ので」

「～するとすぐに」

敬語において、敬意の主体(〇〇から)敬意の対象(〇〇への敬意)の見分け方を記せ。

重要敬語

次の敬語の意味を答えよ。なお数字は意味の数を示す。

給ふ③ S補K補になるときの活用十その特徴も

参る③

参らす②

地の文↓作者から

会話文・手紙文↓話し手から

S 行為の主体・主語を高める

K 行為の客体・目的語、補語を高める

T 地の文↓読者

会話文・手紙文↓聞き手

① S本 お与えになる

② S補 (四段活用)

③ K補 (下二段活用。会話手紙文、思う・見る・聞くのみ。終止形・命令形がない)

① K本 参上する

② K本 代動詞

③ S本 召しあがる

① K本 差し上げる

② K補

申す②

罷る^{まか}③

仕る^{つかまつ}③

仕る^{つかまつ}

給ふ③

(活用の違いや特徴に
ついても書く)

侍り③

候ふ③

① K本 申し上げる

② K補

① K本 (偉い人の下から)退出する

② K本 (偉い人のもとへ)参上する

③ (まかりVで) K補

① K本 お仕えする

② K本 代動詞(いろいろな動詞の代わりになれる動詞)

③ K補

① S本 お与えになる

② S補

③ K補 会話文・手紙文のみ。思ふ、知る、聞くにしかつかない。終止形、命令形ない

① K本 お仕えする

② T本 ございます、います、あります

③ T補 ございます、です、ます

